

令和4年度（今年度）の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>開かれた学校（学校の説明責任）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信：HPの更なる活用、ブログの充実、新聞や広報等のメディアの活用等 ・学校公開：PTAとの懇談、全体説明会、学級・部別懇談会、授業参観、学校関係者評価委員会等 教育活動の一層の充実と授業改善（理想：優劣のかなたに） ・授業の充実（授業検討会の実施、授業チェックシートの活用、ICT機器の導入と効果的な使用法の研究） ・PDCAサイクルの「C＝評価」に重点（外部評価）外部との連携（ペンタゴン交流や手話講習会等） 正しい日本語の読み書きの力を身につけた幼児児童生徒の育成 ・口話と手話を併用する学校における、日本語力向上のための指導方法の研究 ・読書環境の更なる充実（図書館の整備、貸し出し図書の実践、本の読み聞かせの実施） 教職員の多忙化解消に向けて業務の改善と効率化 ・解錠、施錠時間の徹底、土日の出勤原則「0」、定時退校日の定着、書類の簡略化、会議の工夫等 ・ライフワークバランスの良い働き方の実現（達成目標：残業45h未満/月、年休取得7日以上） 		
<p>項目 （担当）</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>幼稚部</p>	<p>友達や先生と楽しくやりとりをしながら、日本語の基礎を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返りなど、子ども同士が共通の話題でやりとりできる場を毎日設定する。 ・年齢や発達段階に合わせて、口声（口形）模倣を促したり文字を提示したりしながら、日本語の音韻意識を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究や授業検討会を行い、日本語の基礎となる音韻の意識を育てるための指導方法、内容、教材、環境などを検討し、実践していく。 ・保護者に対して、指導方針や活動内容、子どもの様子などをこまめに説明し、学校と家庭が協力して指導にあたるようにする。
<p>小学部</p>	<p>児童がともに学び合う授業を展開し、基礎学力の向上を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を的確に捉え、実態に応じた目標を設定したり、個に応じた手だてを講じたりして「分かる授業」を展開する。 ・児童が学び合う活動を授業の中に設定する。 ・児童が自力で家庭学習に取り組めるよう、実態に応じた指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント資料の分析や授業評価から児童の実態やつまずきを的確に把握して、授業計画に反映させる。定期的に取組を振り返り、授業改善につなげる。 ・自分で考える時間を設けて、自分の意見を確立させた上で、意見を練り合う活動を行う。 ・学校で指導した課題の取り組み方を、保護者にも知らせて連携を図る。
<p>中学部</p>	<p>中学生としての自覚を促し、学びの態度と学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を重視し、授業の月目標は各学級で生徒が話し合って決定し、振り返りの機会をもつ。 ・生徒にとって楽しく分かる授業（ICTの更なる活用）を行う。 ・課題の取組方を具体的に指導し、家庭学習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月目標や振り返ったことを掲示し、次に生かす。 ・生徒が主体的に考えた意見を大切に、達成感をもって学習に取り組めるように配慮する。 ・家庭との連携を図り、課題の提出状況や学習の様子をしっかりと保護者に伝える。
<p>高等部</p>	<p>卒業後の生活を見据えた学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上を図り、分かる授業を展開する。 ・授業で学習した内容を深めたり、定着させたりするための家庭課題を継続的に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の研修や授業参観に積極的に参加する。 ・定期的に考査や模試、検定などの結果を分析、評価し、見直しを行いながら指導にあたる。
<p>教務部</p>	<p>ICT機器やデジタル教材を活用して、分かる授業を展開する。</p>	<p>ICT機器やデジタル教材を活用できるように情報提供をしたり研修会を開催したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業研究会を開いたり、部間での情報交換を密にしたりすることで、よい実践を共有する。 ・授業参観やブログなど、保護者にも授業の様子を知っていただく機会をもつ。

生徒指導部	いじめ防止に関する啓発活動を充実させ、思いやりのある人間関係の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケート調査を実施し、いじめの早期発見、迅速な対応ができるようにする。 ・生徒会児童会の啓発活動を充実させ、いじめ防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施方法や結果を懇談等で確認し、情報を保護者と共有できるようにする。 ・全校朝会等、児童生徒が主体的に活動できる場を設定する。
保健体育部	感染症や事故対策を含め、自ら考えて体調管理ができる幼児児童生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課題やその改善策について、実生活につながる情報を発信し、それを基に集会や学級等で指導、支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信している情報だけでなく、どのような保健指導がされているのか、実際の指導場面や様子についてもブログや電子掲示板、各たよりを使って伝えていく。
進路・地域支援部	幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語力や規範意識は、将来につながる力であることを他の分掌と協力して児童生徒に説明し、児童生徒たちの活動につなげて取り組む。 ・本人・保護者との丁寧な進路相談の上、外部試験等の分析を通して、適切な情報提供や指導を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた言葉遣いやルールを守る行動は、日常生活で適時声掛けをする。 ・保護者に、日本語力や規範意識について指導した内容を丁寧に説明する。
自立活動・研修部	聾教育の専門性を高める研修の充実に努め、幼児児童生徒の正しい日本語力の向上を図る。	助詞の指導を学校全体で徹底していくとともに、幼児児童生徒が取り組む助詞の学習を各部で明確にして取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的に取り組めるように、各学部間で情報交換、情報共有を図る。 ・小中高等部では、年度当初に部に応じた実態把握を行い、年度末に再度確認する。
寮務部	お互いに認め合い、協力し合っ てよりよい寄宿舎生活を送る態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎での行事や日頃の生活について、舎生が中心となって話し合う機会を設ける。寄宿舎で生活する一員であることの自覚を促す。 ・家庭や学級担任との連携を密にし、つながりのある指導を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舎生会をあちわ会役員を中心とした話し合いにし、相手を思いやる気持ちや仲間意識を育てる活動を多く設定する。 ・家庭や学級担任との連携を密にして、寄宿舎での生活や支援の様子を知ってもらうようにする。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<p>HPやブログの内容が充実している。</p> <p>PTAとの懇談、全体説明会、学級・部別懇談会等で、分かりやすい説明がなされている。</p> <p>ICT機器が教育活動で有効に活用されていて、幼児児童生徒が授業中にICT機器に触れる機会が多くある。</p> <p>ペンタゴン交流や手話講習会など、外部との連携が図られている。</p> <p>日本語力向上を意識した教育活動が営まれている。</p> <p>図書館が整備され、貸し出し図書が充実するなど、読書環境が整っている。</p> <p>教職員の業務の改善と効率化を図った結果、施錠時間を徹底され、勤務時間外従事時間が短縮し、定時退校日が定着してきている。</p>		

令和3年度（昨年度）の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>開かれた学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信：HPの改善、ブログの質の向上、新聞や広報等のメディアの活用等 ・学校公開：PTA活動の充実、全体説明会、学級・部別懇談、授業参観、 学校関係者評価委員会等 <p>教育活動の一層の充実と授業改善（理想：優劣のかなたに）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実（授業検討会の実施、特色ある教育活動の創設、 ICT機器の導入と効果的な使用法の研究） ・PDCAサイクルの「C＝評価」に重点。 教育活動の見直し（おかりょう授業チェックシートの活用） 正しい日本語の力を身につけた幼児児童生徒の育成 ・口話と手話を併用する学校における、日本語力向上のための指導方法の研究 ・読書環境の充実（図書館の整備、貸し出し図書の実施、本の読み聞かせの実施） 教職員の多忙化解消に向けて業務の改善と効率化 ・解錠、施錠時間の徹底、土日の出勤原則「0」、書類の簡略化、会議の持ち方の工夫等 ・ライフワークバランスの良い働き方の実現（目標：残業45h未満/月、年休取得5日以上） 		
<p>項目 （担当）</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>幼稚部</p>	<p>友達や先生と楽しくやりとりをしながら、日本語の基礎を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの幼児が興味をもてるような話題を取り上げ、幼児同士が質問し合ったり、教え合ったりする場面を日常的に設定する。 ・押さえない言葉の口声模倣を適切なタイミングで繰り返し促し、視覚的に残るように文字を併せて提示したり書いたりする。 	<p>自分の経験や思いを発表したり友達の話や聞いたりする活動を積極的に取り入れた。活動の中で、口声（口形）模倣や、文字を見たり読んだりする活動を積み上げたことで、幼児同士が日本語を用いてやりとりする姿が学校生活のさまざまな場面で見られた。日本語の基礎を身に付けるための幼稚部の取組や指導について、保護者の評価は、十分満足しているとはいえない結果であった。保護者の期待に応えられるよう、指導方針や内容の丁寧な説明と、一層の専門性の向上に努める。</p>
<p>小学部</p>	<p>友達とのやりとりや話し合い活動による対話的な学習を積み重ね、基礎学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現したり、友達と話し合ったりする活動を多く設定する。 ・話形や学習規律を分かりやすく提示する。 	<p>低学年、高学年で学習規律を作成し、それを基に学級指導や授業を行った。また、意見発表の話形を作成し、それを授業の中で活用して、ペアワークやグループ活動、話し合い活動を行ったことで、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする姿勢が身に付いてきた。しかし、保護者から高い評価を得たとは言えない。発表活動は活発になったが、話し合いが深まったと言えないことが要因だと考える。今後、話し合いを深めるために、正しく課題をつかみ、自分の意見を確立させる手だてを講じ、基礎学力の向上に努める。</p>
<p>中学部</p>	<p>中学生としての自覚を促し、学びの態度と学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を重視し、授業の月目標を各学級で生徒が話し合って決定し、振り返りを行う。 ・課題や授業の予習復習の取組方を具体的に指導し、家庭学習の習慣化を図る。 	<p>生徒自身が月ごとに授業目標を決め学習に取り組み、学ぶ意欲を高めることができた。今後も生徒が主体的に考えた意見を大切にして、学力の向上を目指す。家庭学習についての保護者の評価が低かった。今後は保護者との連携を更に深める必要がある。毎日充実した学校生活を送れるように生徒一人一人の実態に合わせ、心に寄り添う指導を続けていく。</p>

<p>高等部</p>	<p>卒業後の生活を見据えた学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業を展開し、授業力の向上を図る。 ・授業の様子やテスト結果等を分析し、具体的な学習方法を指導したり、希望する進路を踏まえた課題を与えたりする。 	<p>聾学校の授業づくりの基礎を中心に評価するおかりう授業チェックシートを使って、定期的に個々の授業を評価した。ICT機器のスキル向上を始め、部の職員が高等学校などの研修に積極的に参加し、授業力の向上を図ることができた。</p> <p>学びの基礎診断や模試の結果を各担当者が分析し、身に付けるべき力について分析した。進路に応じて検定や就職試験のための問題集を自主勉強として取り組めるようにした。</p> <p>生徒の学習意欲に関する保護者の評価が低く、家庭学習の質的量的改善が課題である。高等部で学力を上げるには、授業外にどれだけ学習できるかが重要になってくる。家庭学習の充実を図るため、課題提示の工夫や個々に合わせた学習方法の指導を行っていく。学習の成果を測るものとして模試や各種検定の受検も積極的に勧めていく。</p>
<p>教務部</p>	<p>ICT機器やデジタル教材を活用して、分かる授業を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やデジタル教材を活用できるように情報提供をしたり研修会を開催したりする。 	<p>一人一台タブレット端末を効果的に活用して授業を行うために、教員のニーズに合った研修会を開催することで、各部の児童生徒の実態に合った授業を展開することができた。また、コロナウイルス感染症の拡大を受け、やむを得ず登校できない児童生徒に対してはリモートでの学習支援を行うことができた。</p> <p>今後も新しい技術に対するアンテナを高くし、ICT機器に関する研修会を開くことで教員のスキルを高め、子どもたちの学力を向上できるようにしていく。</p> <p>6割程度の保護者からはおおむねよい評価をいただいたが、授業参観等で実際に授業の様子を見ていただくことで、更に理解を得ていく。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>いじめ防止に関する啓発活動を充実させ、思いやりのある人間関係の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケート調査、相談を実施し、子どもたちの悩みを把握し、未然防止に努める。 	<p>生活アンケート調査は、子どもたちの悩みやストレスを把握する手段として有効であった。また、必要に応じて個別相談を実施し、問題の解決につながることも多くあった。一つ一つの事実確認を細かく割り出し、早期発見・早期対応に努めていく。</p> <p>児童会・生徒会によるいじめ防止に関する啓発活動では、具体的な例を挙げて分かりやすく説明することができた。しかし、保護者からの評価は高くなく、本校が取り組んでいる活動を周知できていないところもある。保護者への理解を促していくために、アンケート調査やいじめ防止に関する啓発活動をより一層分かりやすく情報発信をしていく。</p>
<p>保健体育部</p>	<p>感染症対策を含め、自ら考えて体調管理ができる幼児児童生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集会での講話、たより、ブログ等を活用し、健康課題及び改善策を具体的に幼児児童生徒や保護者に示し、理解を促す。 	<p>感染症対策や健康の維持向上に向けた、実生活に生きる情報の発信を心がけた。日頃の体調確認や感染症予防など、校内では自発的に行動できる子どもの様子が見られた。</p> <p>保護者から見た評価は高くはない。健康的な生活ができるか、意識しているかは、家庭での生活状況に変容が見られなければ評価は得られない。発信している情報を実行に移せる支援、指導をより充実させる必要がある。</p>

			集会や養護教諭、栄養教諭による単発的な授業だけでなく、保健だよりや食育だよりを活用した保健の授業など、担任や教科担任と連携を深め、発信している情報を実践できるようにする継続的な指導、支援をしていく。
進路・ 地域支援部	幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒がマナーや規範意識を身に付けられるように、教員が日々の生活でキャリア教育を意識して支援する。 ・通級における指導では、各自の進路や障害認識を留意したキャリア教育を行う。 	<p>キャリア教育の中で、特に挨拶と時間を守るマナーを身に付けることに取り組んだ。進路地域支援だよりで啓発したり、職員間で共通理解したりする場を設定することで、職員は意識して指導することができた。職員の意識は上がったが、保護者の評価では、幼児児童生徒への定着はまだ十分ではない。今後も、日々の指導で幼児児童生徒に働きかけるとともに、懇談会などで指導内容を丁寧に説明し、家庭とも連携して身に付ける支援をしていく。</p> <p>通級における指導においては、学校生活アンケートを取り個々の児童生徒に合った聞こえにくい場面での対処法などの支援を行うことができた。今後も、アンケート結果を基に、障害認識を深める支援を行っていく。</p>
自立活動・ 研修部	聾教育の専門性を高める研修の充実に努め、幼児児童生徒の正しい日本語力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の指導を学校全体で継続していくとともに、指導方法や内容など具体的な取組について情報の収集や提供、研修を行い、部や全体で確認していく。 	<p>助詞の指導について各部会で取組状況を確認し、その状況を基に分掌部会毎に情報交換を行い、指導の現状や児童生徒の様子等を確認・検討することに取り組んだ。教職員の評価から、指導は定着してきたと思われる。保護者の評価から、保護者は指導への理解はある程度しているが、子どもの明確な日本語力の向上を実感するまでは至っていないと思われる。今の助詞の指導を学校全体の取組として来年度も継続していくと共に、よりよい指導方法を検討していき、学校全体で指導の共通理解を図る場面を設けていく。また、「でんでんむし」に各部の自立活動等の取組を載せたり、担任から指導を具体的に提示することを推進したりして、情報発信することで、指導の様子を保護者と共有していく。さらに、研修会等への参加を積極的に勧めること、ニーズに応じた研修を設けることで、指導力向上に努めていく。</p>
寮務部	発達段階に合ったマナーや生活態度を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎のルール of 意義について舎生同士で考えたり話し合ったりする機会を設ける。 ・家庭や学級担任との連携を密にし、つながりのある指導を心掛ける。 	<p>舎生会をあちわ会役員を中心とした話し合いにし、自ら考える活動を多く設定したところ、コロナ禍でのルール of 意義を理解し、互いに声を掛け合ってマナーを守って生活ができた。</p> <p>寄宿舎での出来事を保護者に丁寧に説明し、その上で最善の方法をともに探っていくようにした。寄宿舎生活についての保護者からの評価もおおむね良好だった。</p> <p>記録を電子化し学級担任にいつでも舎生の生活記録が見られるようにするなど、学級担任や関係職員とも十分に連絡を取り合うことで、大きなトラブルなく落ち着いて過ごせる舎生が多かった。</p>